

第33回(令和7年度第2回)静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

1 日時 令和8年2月19日(木) 午前10時～

2 場所 ツインメッセ静岡 409会議室

3 出席者

【委員】

秋山委員、井野委員、小澤委員、杉山(恵)委員、杉山(奈)委員、鈴木委員、
高倉委員、高橋委員、望月委員、山崎委員
(欠席:鍋嶋委員・鳥羽委員)

【事務局】

気田経済局次長兼商工部長、餅原経済局理事
産業振興課:福井課長、片山地場産業担当課長、他関係職員

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1)第32回(令和7年度第1回)審議会における委員からの意見への対応
- (2)第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画の令和8年度登載事業について
- (3)令和8年度2月補正予算の概要について

6 会議内容

(1)開会(事務局)

(2)経済局次長あいさつ

経済局次長よりあいさつ

(3)審議事項

① 第32回(令和7年度第1回)審議会における委員からの意見への対応

・資料1に基づき、事務局より前回の指摘事項(現場改善支援事業のフォローアップ、産業フェア静岡の目標設定、女性活躍ブランド認定事業の終了対応)への対応状況を説明

(鈴木委員)

回答にあった「現場改善支援事業」の専門アドバイザーとは、具体的にどのような資格や経歴を持つ方が担当しているのか。

(事務局)

中小企業診断士や、製造現場でのマネジメント経験があるメーカーOBの方などを登録し、企業の要望に合わせて派遣している。

(秋山委員)

補足する。自身も選定に関わっているが、登録にあたっては審議会として面談を行い、経歴や問題意識等を総合的に判断して決定している。

(高橋委員)

自身も専門アドバイザーとして現場に入った経験から、現場改善は現場だけでなく経営全体に関わるものであると感じている。経営者を巻き込み、継続性につながるような支援を期待する。

② 第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画の令和8年度登載事業について

・資料2、3に基づき、事務局より令和8年度(計画後期4年目)に向けた変更点について説明

(秋山委員)

生産性向上や設備投資に対する補助金(中小企業事業高度化事業助成等)について、応募案件の採用基準や評価の妥当性はどのように担保されているか。単に設備を入れて人を減らすのではなく、会社の体質強化につながる投資であるべきと考える。

(事務局)

評価基準として「生産性の向上(年10%以上)」「省エネ効果」「賃上げ(令和8年度より追加)」の3点を設けている。生産性については、導入設備単体だけでなく、導入による波及効果も含めて評価している。審査は事務局にて申請内容(数値等)に基づき実施している。

(山崎委員)

「産業フェアしずおか」について、内容のマンネリ化を防ぐため、実行委員会に外部人材や新しい視点を入れる等の工夫が必要ではないか。

(事務局)

静岡産業振興協会と協議し、来場者アンケート等を踏まえて改善を図っている。SNS活用等のPR手法も含め、外部の意見を取り入れられるよう伝えていきたい。

(山崎委員)

「生産性向上による賃上げ支援事業」等のDX伴走支援において、専門家はどのように選定さ

れているのか。小規模事業者でも導入可能な提案がなされるのか。

(事務局)

支援事業者はプロポーザル方式で選定しており、ベンチャーや県外企業も含まれる。伴走支援の中で企業の課題を明確化し、身の丈に合ったツール選定や補助金活用も含めて支援している。

(望月委員)

「中小企業の海外展開に対する支援」について、成果指標が「現地で契約・販売につながった商品数」に変更されたが、海外取引は時間がかかる。単年度だけでなく複数年の追跡調査が必要ではないか。

(事務局)

おっしゃる通り、成果が出るまで時間がかかるため、支援終了後も3年程度は状況をヒアリングし、事業効果を把握・評価できるようにしていきたい。

(杉山(恵)委員)

「工芸品価値創造事業」に関連し、先日開催された東京ガールズコレクション(TGC)での伝統工芸品ステージが非常に素晴らしかった。今後もブランディングやマーケティングの観点から継続してほしい。

(事務局)

TGCでは新たな客層へのアプローチとしてファッションとしての活用を提案した。また、米国でのテストマーケティング等も実施しており、今後も職人・デザイナー・メーカーが一体となった商品開発や販路開拓を進めていく。

(高橋委員)

「伝統工芸技術アーカイブス事業」が廃止となるが、技術の保存は重要である。アーカイブ以外の方法で技術継承を補完する事業はあるか。

(事務局)

主要な技術の映像化が完了したためアーカイブ事業は終了するが、今後は「伝統工芸技術保存講習会」等を通じ、人から人への直接的な技術継承や、新しい製品開発を通じた技術の研鑽に重点を置いて支援していく。

(4)報告事項

令和8年度2月補正予算の概要について

- ・資料4に基づき、事務局より国の「重点支援地方交付金」を活用した中小企業の賃上げ環境整備(設備投資助成、DX伴走支援、AI活用研修等)について説明

(小澤委員)

DX支援や業務プロセス改善について、想定している企業の規模感はどの程度か。小規模事業者にとっては賃上げやDXのハードルが高い。

(事務局)

特に制限は設けていないが、実績としては従業員50名以下の企業が中心である。数名規模の企業でも成果が出ている事例があり、3月に開催する成果発表会等で周知していきたい。

(秋山委員)

設備投資による生産性向上(10%向上)の評価について、事前の見込みと実績の乖離をどう確認するのか。また、省人化による生産性向上と賃上げの関係はどう整理しているか。

(事務局)

申請時に直近決算と導入後の見込み数値を提出してもらい審査する。実績については、補助事業完了後に報告を求め確認する。賃上げについては、表明書を提出してもらい担保する仕組みとしている。

(秋山委員)

良い事業を行っているので、「静岡気分(広報紙)」などを活用し、一般市民や事業者にもっと広く知ってもらう努力をしてほしい。

(事務局)

承知した。周知に努める。

(5)閉会

予定された議事を終了し、閉会した。